

平成20年度 継続評価書

研究機関 : NTTコミュニケーションズ(株)、日本電信電話(株)
研究開発課題 : 経路ハイジャックの検知・回復・予防に関する研究開発
研究開発期間 : 平成 18 ～ 21 年度
代表研究責任者 : 南澤 正人

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)

■ 総合評価点 : 29点

(総論)

引き続き研究開発を推進することについて、問題なく適切と評価できる。

(コメント)

- 重要なテーマを実用化を考えつつ実施しており問題はない。
- 本研究開発内容は、ISP 間での連携を必要とする重要な技術開発要素であり、継続実施とともに、早期に実運用への移行を進めていくことが望ましいと考える。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 7点

(総論)

経路ハイジャックの検知・回復・予防とも所定の目標を達成しており、計画通りの成果が出ていると評価できる。さらに実用化を目指して意欲的に標準化活動を実施していることが良い。

(コメント)

- 引き続き実用化に向け適切な対応を期待する。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

特に問題点は見当たらず、合理的な執行が行われており、研究資金使用状況は適切と評価できる。

(コメント)

- 予定とあまり変わらず、年度当初の予算計画から変わった点も合理的な理由があると見られる。
- 具体的には、今年度は業務請負経費が当初計画より多かったが、労務費を削減することで適切に執行されていると評価できる。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

実用化に向け適切な計画である。

実行可能かつ効率的な研究開発実施計画と評価できる。

(コメント)

- フィールド実験を、他ベンダーやメーカを巻き込み計画しており適切な計画である。
- 今年度までの研究開発は予定通りに進行しており、来年度の実施計画は当初の計画どおりであると評価できる。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 5点

(総論)

特に問題は見当たらず、概ね効率的な予算計画が組まれていると評価できる。

(コメント)

- 今年度の実施状況から来年度の予算計画の積算額は妥当であると評価できる。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 5点

(総論)

特に問題は見当たらず、概ね適切な実施体制が組みれていると評価できる。

(コメント)

- 企業間の連携をうまくとり、フィールド実験を進めてほしい。